

英語の文に於ける比較形式に就て

鏑 木 光 朗

本誌 8 号に於て英語と日本語の形容詞の二用法に就て述べたのであるが、本文に於ては更に英語の形容詞の文に於ける用法、特に比較文に於ける用法に就いて述べて見度いと思う。

先ず英語の比較文の用法を述べる前に、比較とは如何なることを言うのかと言うと、比較とは二人（又は二つの物）又は其れ以上の人（又は物）を比較することを言う。それでは比較とは常に相手（又は対象物）を必要とするかと言うと、必ずしもそうとは限らず、一人（又は一つの物）についても比較を考えることはあるが、（此の事は後述）それは特別な場合で、普通は相手（又は対象物）を必要とする。此の相手（又は対象物）を必要とする比較形式を考えるのに、英語に於ては次の三つの場合が考えられる。

即ち原級 (positive degree) 比較級 (comparative degree) 最上級 (superlative degree) である。英語には此の三つの比較の程度がある。そして普通原級が比較の程度の差が一番小さく、その次が比較級その次ぎが最上級の順であると考えられているが、此の考えは誤っている。例えば Peter is older than John と言った場合、Peter is old なることを言っているのではない。ただ単に Peter と John との年令の差について Peter が John よりも年上であることを述べているのである。従って上文に於ては、John is old なることを言っているのでもない。従って Peter is old と言った方が上文よりも程度の差（比較）が大であると言えるのである。原級がかえって比較級よりも程度の差が大であると言えるのである。此の事は比較級と最上級とを比べた場合でも言えるのであって、例えば同じ事柄を比較級でも最上級でも言うことが出来るのを見ても分ることと思う。

即ち、A is older than the other boys. 又は A is the oldest boy. つまり比較級最上級と言っても各々異った立場から見て言ったのであって、上文では初めの文は A を他のすべての少年と比較して述べたのであり、後の文は A を他のすべての少年達の中に含めて述べたのである。それ故何れも比較することには変り無いが、比較する場合の見方と言うのか、立場が異っているのである。それでは原級は全然比較と言うことには関係ないかと言うとそうではない。今此處に、The fence is high と言った場合、頭の中では他の桓根を考えており、其等と比較して言っているのである。若し桓根なるものを全然知らなければ、The fence is high と言うことは言えない筈である。それでは此の原級も心理的に比較しているのであるとしたら、それは比較級、最上級とは如何に異なるのであろうか。それは原級は心の中で比較した結果を言うのであるが、比較級、最上級は比較の対象を明示し、比較級の方は比較の過程 (process) を示すのである。以上英語の形容詞の三つの比較の形を述べたのであるが、次に此の三つの形が実際の文に用いられた場合、即ち比較形式 (comparison-form) 云い換えれば、二個 (以上) の事物又は二人 (以上) の人相互間に於ける程度の大小を比較考量した結果を表現する文形式について述べて見よう。かかる比較形式には大別して次の二つの場合が考えられると思う。即ち

① 同等比較 (comparison of equality)

as~as, so~as, not as~as, not so~as, so~as? 等の構文であって、同程度の人(又

は物)を比較する文形式である。

② 不等比較 (comparison of inequality)

此の文は程度の差のある人(又は物)を比較する文形式であって、次の二つの形式に分けられる。即ち、a) 優越比較 (comparison of superiority) …一方が他方より程度の差(比較)が大であることを示す比較形式である。之を更に次の二つに分ける。

即ち、(α) 比較級 +than と (β) the + 最上級 +of (in, among) とである。もう一つの比較形式は b) 劣勢比較 (comparison of inferiority) …一方が他方より程度の差(比較)が小であることを示す比較形式である。之も更に次の二つに分けられる。

即ち、(α) less + 原級 +than と (β) the +least +原級 +of (in, among) とである。次に例文を挙げてその各々に就て詳細に述べることにする。先ず同等比較の場合であるが、その代表的な例文としては、I am as tall as he の場合である。此の場合、I am as tall as he (is) の意味で、私と彼の背の高さが等しいことを述べているのである。此の場合、I am tall, he is tall なることが事前に判明して、その上で I am as tall as he と云うのである。かかる同等比較の文を打消す文には二通りあって、I am not as tall as he と I am not so tall as he とあるが、此の二文も、詳しくは意味の相異があり、I am as tall as he の実際の打消しの文は I am not so tall as he となるのであるが、そのことは今此処では述べる余地が無いので簡単にして置く。さて同等比較の形の上の否定の文は以上の通りであるが、意味の上での否定の文は次の比較の形即ち、不等比較になると思う。其の例を挙げよう。(前述の記号使用)

② a) (α) He is taller than I. / This flower is more beautiful than that. / He is much better today than yesterday. / I am taller of the two. / He can swim better than any other boy in his class.

此等の文は何れも二人(又は二物)の間に於ける比較を述べる文で、一方が他方より優越していることを述べているに過ぎない。従って今簡単な例文、He is older than I を取り上げた場合、He is old 又は I am old なることを述べているのではなく、彼と私との年齢を比べて、彼の方が大きいことを述べているだけであると云える。此の様な比較の意味を表わす文が此の場合である。次に、② a) (β) He is the tallest of us all. / This is the most interesting book of all. / The lake is deepest here. / He plays tennis best in our class. / 此等の文の場合、二人以上の人(又は物)を比較して、比較の程度の差が最大なることを述べているのであって、② a) (α)の場合と立場を異にしているだけである。

次に ② b) (α), You are less poor than I. / This book is less instructive than that. 此等の文の場合、一方が他方より劣っていることを述べているだけである。最後に、② b) (β) You are the least poor of us. の場合である。此の場合、二人以上の人の中で、最も比較の程度の差が小さいことを示しているのである。以上英語の代表的な比較形式を例文を夫々挙げて説明したのであるが、

此等の文を意味上から考えて見ると、次の如き結果になるのではないかと思う。上述の附号を用いて式にして表わすと、次の如くなる。即ち、①の否定文=② a) (α)の肯定文又は ② b) (α)の肯定文、② a) (α)の否定文=①又は ② b) (α)の肯定文、② b) (α)の否定文=①又は ② a) (α)の肯定文となる。逆に言うと①の肯定文=② a) (α)と ② b) (α)の否定文、② a) (α)の肯定文=①と ② b) (α)の否定文、② b) (α)の肯定文=①と ② a) (α)の否定文となる。以上英語の文に於て、普通用いられる比較形

式を其の形の上からと意味の上からと述べて来たのであるが、なお此の外に、英語の文には種々な比較形式がある。其等は正しい比較形式を有していない場合もあるので、一見普通の文と見誤る恐れがあるものもあるが、大体に於て形の上から見分けられると思う。

今から其の様な比較形式について項目を挙げて述べようと思う。

A. no more than の形

The whale is no more a fish than a horse is.

此の文は一見普通の比較文即ち前述の ② a) (a) の否定文（優越比較の否定文）の様
に形の上からは思われるが、意味上から考えるとそうではない。此の文は最後の a horse
is の後に not a fish が略されているのであって、直訳すると「馬が魚でない以上に鯨
は魚ではない」となり、意識すると、「鯨が魚でないのは馬が魚でないと同様である又
は、馬が魚でないと同様に鯨は魚ではない」となる。かかる比較文に於ては than 以下
に分り切った事実を持って来る。上文では馬が魚でないと言うことは既定の事実である。
此の既定の事実と比較して、鯨が魚でないことを明確に述べたのである。従って上文は意
味上次の如き比較文に等しいと考えられる。即ち、The whale is not a fish as well as
a horse. 此の文は同等比較の否定文と言うことが出来るのである。

B. 漸層比較形 (comparison of graduation)

此の比較形は二つの比較級を接続詞andで結んで出来た形で、比較の程度が次第々に
大きくなったり、小さくなったりすることを表わしている形である。例文を挙げると次の
如くなる。即ち、Conditions are getting worse and worse every day. / He became
more and more eloquent towards the end of his speech. 此等の文は前述の ② a)
(a) 又は ② b) (a) の文の than 以下の文を省略した形式の文である。

C. much more, much less.

此の比較形は前文を受けて程度の更に甚しいことを表わす文である。普通肯定文の後に
much more が、否定文の後に much less が用いられる。例えば、The abbreviating,
much more the garbling, of documents does great harm. / Garbling was not
permitted, much less encouraged. 此等の文も前述の ② a) (a) 又は ② b) (a) の
文の than 以下の文を省略した文である。

D. more than

此の語群 'more than' は其の表わす意味に従って用法が異なる。普通は not merely
の意味の副詞として用いる。例えば、She was more than old-fashioned. しかし more
を複数不定代名詞と考へて、more than one has, or have found it so. となることも
ある。何れにしても前述の ② a) (a) の文の than 以下の文を省略した文である。

E. the+比較級 the+比較級,

此の比較形式もBと同様、程度の差が次第々に大きくなったり小さくなったりするこ
とを表わす形式の文である。例えば、This stone gets the harder, the longer it is
exposed to the weather. / The harder he learns the wiser he becomes. / The
more the better. 従って此等の文も又、前述の ② a) (a) の文の than 以下を省略し
た文であると考えられる。

F. no more than……=as little as, as few as, only.

no less than……=as much as, as many as.

not more than……=……at most.

not less than……=……at least.

例えば, He has no more than (only) two children. / He remained there not more than three months. / You must pay not less than twenty pounds.

此等の文は、形の上からは前述の ② a) (a) 又は ② b) (a) の文であるが、意味上からは同等比較の文であると考えられる。

G. would rather (or had rather)

此の比較形式は bad better の場合と同じである。

rather は副詞 rathe (古形) の比較級である。此の比較形は選択の意味を表わす「寧ろ…した方が良い」と言う意味である。例えば, I would rather not go. / I would die rather (=more willingly) than surrender. 此等の文も前述の ② a) (a) の文の than 以下の文を省略した文であると云える。以上の外にも之に類似した比較形式の文が未だ種々あるが、省略することにする。以上の各比較形式の文を見ても分る様に、大きくは上述の同等比較、不等比較の文が英語の比較形式の文であって、其等の文の変形が種々な比較形式の文となっていることが分ると思う。ただ比較とは二人又はそれ以上の人、二つ又はそれ以上の物の間に於て普通考えられるのであるが、必ずしもそうではなく、一人又は一物に於ても比較が考えられると冒頭に於て述べたが、其の例として、英語の文の比較形式に於ける絶対比較級、絶対最上級について述べることにする。

両者の中絶対最上級は普通用いられるが、絶対比較級は稀である。絶対と云うのは比較的の意味であって、日本語の「絶対」と言う意味ではない。即ち普通 very なる英語の副詞をもって表わす意味を言うのである。先ず絶対最上級とは最上級の形をしていしかも very high degree を表わす。此の際普通 most + 形容詞 (又は副詞) 又は、a most + 形容詞 (又は副詞) の形を有する。従って最上級を表わす the most + 形容詞 (又は副詞) とは形の上から区別することが出来ると思われる。

では次に絶対最上級を用いた比較文の例を挙げよう。He has a most beautiful garden. / We shall soon see Gorge and his most beautiful wife.

此の際、純粹の最上級との区別は、最上級の場合は most にアクセントが置かれるに反して、絶対最上級の場合には most の後の形容詞 (又は副詞) にアクセントが置かれるのに依るのである。更に最も普通の絶対最上級を表わす方法は、形容詞 (又は副詞) の原級の前に very, exceedingly, highly, absolutely 等の程度を表わす副詞を置くことであることは言う迄もない。例えば, She sings very beautifully. / He is suffering very much. / It is a very beautiful garden. 以上が絶対最上級の説明であるが、次に絶対比較級とは如何なる形かと言うと、之も大体前者と同様な比較形である。即ち此の比較形は比較の概念が非常に強くない場合に屢々用いられる。

例えば, the lower classes, the younger generation, the higher criticism, the higher schools, Longer poems. (as a book-title), 普通此の比較形に於ては比較すべき他の人 (又は物) が表わされない。それ故, the lower classes とは単に 'lower class than some other classes' の意味である。以上絶対最上級、絶対比較級について夫々述べたのであるが、此等の比較形を見ても分る如く、比較には必ずしも対象の (又は人物) を必要としないのである。此の事は日本語に於ても云えることと思うが、英語の文には特にかかる比較の形式が用いられることが多いと思うのである。以上英語の文の比較形式について色々述べて来たのであるが、比較とは日常良く用いられるのでその文形式は簡単に考えられ易い。今此処に英語に於ける比較文の形式を述べて、英語の形容詞 (又は副詞) の実際の文に於ける用法を述べて今後の研究の一助にし度く思うのである。